豊明希望チャペル礼拝

2025／7／13

「整えられた民を用意する」

ルカの福音書１：1～25

本日からルカの福音書から教えられたいと願っております。今、使徒の働きから教えられていますが、二つとも同じルカが書いたものであり、ルカの福音書が第一部、使徒の働きが第二部というかたちで書いたものです。

今日の箇所では、この福音書が誰に向けて、どのような目的で書かれたかを、書いています。聖書には 4 つの、イエス様の生涯を記した「福音書」と呼ばれる書があるわけですが(←マルコ：獅子、マタイ：人（天使)、ルカ：雄牛、ヨハネ：鷲)、宛先と、序論として「なぜ書いたのか」まで丁寧に書いてあるのは、このルカの福音書だけです。

また、そのこと(宛先＆執筆理由)と関係あると思いますが、彼は、マルコと、マタイと、ヨハネが、それぞれイエス様の使徒、あるいはイエス様の目撃者であるのに対して、少なくとも、親しくはイエス様との交流のなかっただろう人です。

ですから、目撃者として後世のために文章に残しておこうという、おそらくは他の福音書の主な目的とは違って、特別に、このイエス様のことを伝えたい人がいて、その人にわかるように、その人の事を思いながら、必要な情報、記録をピックアップして書いた内容の書だと言うことです。

さらに詳しく言うと、これは、紀元 80 年くらいに書かれただろう書で、すると、マルコの福音書とマタイの福音書は参考に出来たけれど、ヨハネの福音書は参考に出来なかったかも知れません。ただ、ヨハネの福音書が書かれたのも紀元 80 年以降で、ヨハネもルカのように、自分が目撃したことと足して、マルコやマタイの書以外に、何か、今は残っていない教会に知られた記録、あるいは証言を調べて書いた可能性があって、ルカも、ヨハネ

の用いた、そうした資料を同じく用いて書いているのだろうと思います。(大学の神学部の時に、そうした資料を色分けして、たとえば、ルカは、どんな資料を用いていたかを勉強したことがあります・・そういう色分けした英語の聖書もあります・・)

なんでこんな話をしたかと言いますと、ルカの福音書が、たとえば学生が論文を書くときのように、この話はどこから引用したか、いちいち引照(文献などを比較引用すること・・)をいれて書くように、それはすなわち、根拠のない話しは書かない、別の言い方をすれば、事実と確認されたことだけを書くという、科学者のような厳密な態度でこの福音書を書いていると言うことです。

パウロの手紙を見ると、たびたびこのルカに言及していて、コロサイ人への手紙(4:14)で、「「愛する医者ルカ・・・がよろしくと言っています」と言い、パウロにとっての体の医者で、また、パウロが手紙をコロサイの人に書くときに、パウロ先生、私もみなさんによろしく伝えて下さい・・と口をはさんでいた？様子が書いてあって、伝道旅行に同行していたことがわかります。晩年にパウロが書いたⅡテモテの手紙には、「ルカだけがわたしのところにいます。」と、非常に忠実に最後までパウロに同行した弟子であったことがわかります。

パウロはユダヤ教のもともとは学者でありましたが、ルカの福音書を読むと、ルカも学識の高い人であったことがわかります。そして、考え方、文章の書き方が、パウロはどちらかというと、哲学者としての学識ですが、ルカは、科学者としての学識を感じさせられる、いわば、実証主義、事実に基づいてのみ書きしるすという性格をもっていた人だということがわかります。

さて、ルカについての話しはその辺にしまして、さっそく最初のところを読みますが、その辺の彼の特徴がよく表れております。4 節までは、この手紙の宛先と、目的について書いたところです。

「1:1,2 私たちの間で成し遂げられた事柄については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人たちが私たちに伝えたとおりのことを、多くの人がまとめて書き上げようとすでに試みています。1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べていますから、尊敬するテオフィロ様、あなたのために、順序立てて書いて差し上げるのがよいと思います。1:4 それによって、すでにお受けになった教えが確かであることを、あなたによく分かっていただきたいと思います。」

「わたしたち」とは、ルカとパウロたちということでしょう。宛先のテオフィロについては、使徒の働きの書き出しのところにもあって、少し触れているとは思いますが、身分の高い役人か誰かだっただろうと言われていますが、それ以上はわかりません。内容からして、いわゆる有力者で、既にイエス様を信じ始めていて、求道者で、この人が信じることによって、異邦人社会に大きな伝道、証のチャンスを開くだろう、影響力のある人だっただろうと思います。

「初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人たちが私たちに伝えたとおりのことを、多くの人がまとめて書き上げようとすでに試みています。」というのは、マルコ先生やマタイ先生がすでに書いて、みなさんお読みと思いますので、

あらためて、あらためて書く必要ないかもしれませんが、私は、私なりに、それが本当にイエス様のいわれたことか、確かな伝聞によるものかを、口はばったいですが、自分は、医術の世界に生きる者、根拠のない施術は、その人の命に影響するから、実証済の医療、薬以外は決して用いないように、永遠の命に関することですから、ことさら、事実を事実として書き、自信を持ってあなたにお伝えできることだけをお伝えしようと、「綿密に調べて」(1:3)、起承転結、仮説・実験・証明と科学的に「順序立てて」書いたら、信じ始めたことを確信していただけるかと思っております。そう言っているのです。あなたには、パウロ先生などがお伝えになった事が、今ひとつ信じられないと最後の決断が出来ずにおられるかもしれませんが、パウロ先生がお伝えいただいている事は、確かだと、信じるに値する、私もクリスチャンになろう、洗礼を受けようと決断していただけるかと、その少しでも助けになっていただければと、私のせいいっぱいの力で書いてみますので、どうぞよろしくお願いします・・と言っているのだと思います。

彼は、イエス様の話に入る前に、イエス様の前に旧約最後の預言者としてあらわれ、すべての旧約預言者が、最終的に指し示していた、メシヤ、救い主を、直接名指し紹介した、ヨハネ、いわゆるバプテスマのヨハネのことからお話ししますと言います。そして、長い箇所となりますが、残りの 25 節までで、彼は、このバプテスマのヨハネの素性について丁寧に記します。

続きの、最初のところだけ読みます。

「1:5 ユダヤの王

ヘロデの時代に、アビヤの組の者でザカリヤという名の祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。1:6 二人とも神の前に正しい人で、主のすべての命令と掟を落度なく行っていた。1:7 しかし、彼らには子がいなかった。･･･」と語り始めます。

ザカリヤという祭司がいて、これが、バプテスマのヨハネのお父さんとなりますが、お母さんの名前はエリサベツ、このザカリヤ家には、子どもが与えられていませんでした。ちなみに、このエリサベツのいとこがイエス様の母マリヤです。

お父さんは祭司ですが、エリサベツの家系も祭司家系でありました。

祭司と言いましても、相当数の祭司におりまして、ここに「命令と掟を落度なく行っていた」とありまして、祭司にまじめ不真面目はないと思いますが、非常に真面目で、職務に誠実な祭司だったといいます。

その日は、香をたく係の日だったとあります。9 節にクジがあたったと、書いてありますが、その職務は、一年に一度まわってくるかどうかの名誉ある日だったとも言われます。そんな不思議な日に、彼に天の使いが現れたのです。珍しいですが、この天使は名前を名のります。ガブリエルです(1:19)。

どうでもいいですが、倉本聰の北海道を舞台にしたドラマ「風のガーデン」で、障害を持った息子が、花のガーデンで、顔を知らない父親に出会うとき、誰？と聞く息子に、父親の口からとっさに出た言葉が、「私は、ガブリエルです。ガブさんと呼んで下さい。」でしたが、天使と言えばガブリエルということで、伝説では、天使の最高地位にある天使ということになっていますが・・ルカは、まさに 3 節にあるように、「すべてのことを初めから綿密に調べた」、成果だったのでしょう。

ザカリヤの関係者に聞くと、ザカリヤは、その時、急に口がきけなくなっていたが、耳だけは聞こえていて、確かに「ガブリエル」と、その天の使いは名のったと聞いたのでしょう。

ここで、まとめたいのですが。

（１）ルカが言いたいことは、嘘だと思ったら調べてくれ、これは、ザカリヤが幻を見たとか、彼の想像だったとかそういうことではなくて、**実にリアルで、現実のこと**だったと、そう言いたいのだろうと思います。

そのことは、この長い箇所で、ルカが言いたい一番のことだと思います。

（２）そして、もう一つルカが言いたいこと、テオフィロさんに聞いて欲しいことは、これが、誰かの思いつきや発想ではなく、**生きて働く神の計画**だったと言うことだと思います。

ルカの福音書には、神という言葉が、他の福音書に比べて、一番たくさん出てくるのです。ちなみに、マタイ 51 回。マルコ 48 回。ヨハネ 83 回。ルカ 122 回。使徒の働きと合わせると、288 回。主イエスキリスト(主)は、マタイ 80 回、マルコ 18 回、ヨハネ 52 回。ルカ 103 回。使徒とあわせて 210 回。

この二つのことをまとめると、まとめが少し早いかも知れないですが、ルカが、ここで言いたかった事、それは、こういうことだろうと思います。

それは、私は、私のできる限りの力で、事実だけを書く。テオフィロさんが、

間違いなく信じていいこと、私は、医者として、科学者として、確認できることだけ、目撃されたこと、事実だけを、伝えたい。

その事実とは、ザカリヤ夫妻が、子どもが出来なかったこと。しかし、天使に出会って、名前も分かっていますが、ガブリエルですが、そのガブリエルから、子どもが出来なかったが、子どもが出来ると約束されて、イエス様がメシヤであること、神であることを証するために来るバプテスマのヨハネという子どもが生まれたこと。子どもが出来ないはずの夫婦に子どもが出来たこと、これは、事実です。

そして、その事実と同じくらい事実であることが、神が生きておられて、私たちの見えるもの以上に、確かな存在として、見えないけれど、たしかに存在し、生きておられる神がおられると言うことです。私は、それを、マルコ先生、マタイ先生の 2 倍か 3 倍伝えたい。救い主、キリストが、見えるものより、確かな存在として存在しておられることを、私は、マタイさん以上に、マルコさんの 5 倍、6 倍伝えたいのですということです。

すなわち。今週の聖句となる箇所を読みます。

「**1:17 彼はエリヤの霊と力で、主**(イエス・キリスト)**に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ**(ザカリヤは、息子ヨハネから真理を聞くことになる)**、不従順な者たち**(ユダヤ人からはじまりすべての人間)**を義人の思いに立ち返らせて、主**(イエス・キリスト)**のために、整えられた民**(イエス様に仕える使徒達・・ひいては、すべての救われるべきクリスチャン)**を用意します。**」

神が、この二人の夫婦に、バプテスマのヨハネを授け、そして、神が、このバプテスマのヨハネを、最後の預言者、究極の預言を授けられた預言者として、来たるべき救い主、メシヤを、神を、直接、指し示す人となる。

すべては、このように、神が、具体的に人を用い、人を動かし、歴史に奇跡を来たらせる、聖書は、事実、そして、神も事実存在しておられる。そして、私たちの人生に関わり、そして、救いを来たらせ、成就してくださる。キリストが、それを成し遂げて下さる。これは、目に見える事実以上の、信頼できる事実なのだ、そのことを、ここまで報告で、お伝えしたい。テオフィロさん、そして、これを読み、聞いているすべての方々、どうか、信じて欲しい！そう叫び、呼びかけ、招いていると言うことであります。

この週。この事実、救い主はキリストである事実。私たちの人生で、遅い、見えない、わからないと思えたとしても、見えない神の計画は確かに進んでいることを信じて、御言葉に頼り、疑わず神に委ねて、キリストを信じ神に従う歩みを歩みたいと願うのです。